

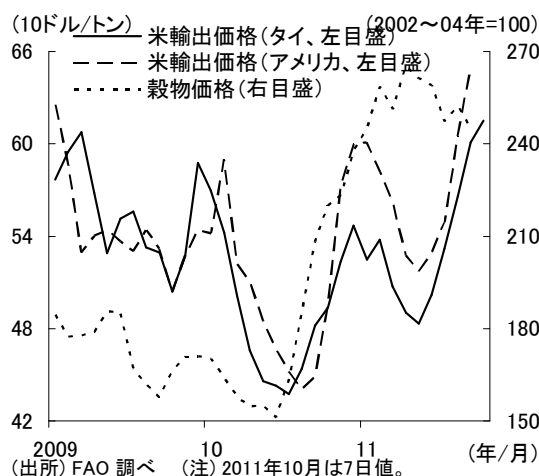


上昇するコメ価格

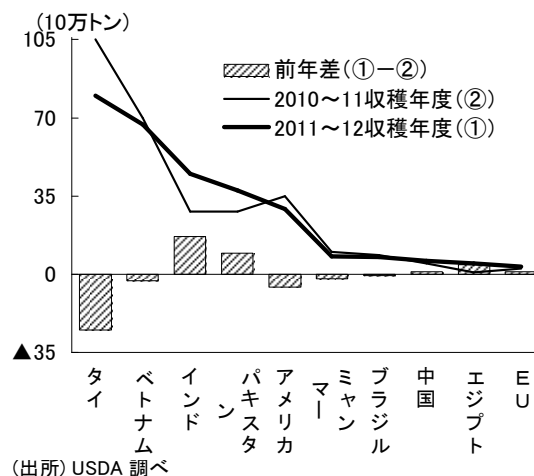
～ タイ新政権の農家支援策に加え、洪水が値上がりを増幅 ～

- (1) コメ価格が本年5月を底に6月以降上昇（図表1）。バンコク輸出価格はトン当たり5月の483ドルから10月7日615ドルへ3割上昇。小麦やコーンをはじめ穀物全体でみると5月をピークに価格が下落。従来、コメも穀物価格全体と総じてほぼ同様の推移。それだけにこのところの動きは特異。
- (2) タイは世界最大のコメ輸出国（図表2）。同国では7月3日の総選挙を受けて、8月9日、インラック政権が発足。同氏が率いるタイ貢献党は低所得者支援策と併せ、農家支援策を重点政策と位置付け。農家がコメを売却する際の最低価格を引き上げ。なお、総選挙前の6月からコメ価格が上昇に転じたのは、最低価格引き上げ策を公約とする同党が総選挙で勝利するとの思惑が強まった結果。
- (3) タイ要因は無視出来ず。しかし需給緩和が進めば価格は下落する筋合い。値上がりは需給緩和が期待薄な情勢が根底。米農務省の世界需給予測によると本年度の総輸出量は3,296万トンと昨年度の3,354万トンから▲58万トンのマイナスへ。インドの輸出増加は期待されるものの、世界最大の輸出国であるタイが前年度比▲250万トンの減少見込み。
- (4) 加えて、このところの洪水影響が懸念（図表3）。タイ農村地域ではすでに7月以降、例年比降水量が多かったなか、10月に入り記録的降雨に直撃。タイのみならず、中国の米作地域である華南地方は、8月までの早魃から10月に入り一転して記録的降雨（図表4）。世界第4位のコメ輸出国であるパキスタンも洪水被害。天候要因を加味すると、今後一段のコメ価格上昇の展開が視野。

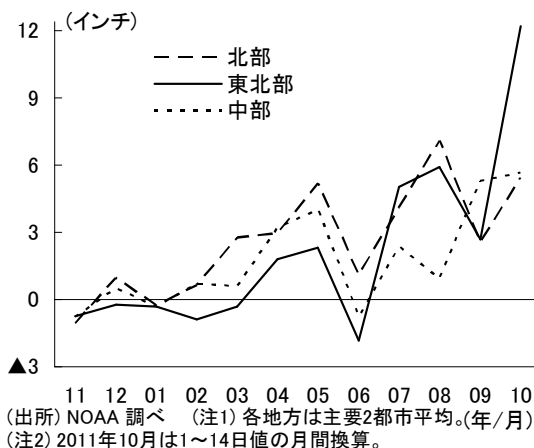
（図表1）コメ価格と穀物価格の推移



（図表2）コメ輸出上位10カ国の輸出量



（図表3）タイ地方別降水量の年差
(1990～2010年平均と2010年10～11年10月の乖離)



（図表4）中国華南地方の降水量

